

# J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



「風薫る5月」といいますが、J-DAVID研究会は北は旭川から南は沖縄までご参加いただいているので季節感も様々ではないでしょうか？  
 今月は、旭川の石田真理先生から「北国の春」のご報告です。

## 世話人・幹事からのメッセージ

### 「J-DAVIDと春を待ちわびて」

医療法人仁友会 北彩都病院 副院長 石田真理先生

J-DAVID透析室最前線シリーズ最北端の旭川から、石田真理がレポート致します。

前回の佐藤先生の四国は桜前線も通過してしまったであろうこの頃、旭川ではまさに百花繚乱という季節を迎えています。今年の冬は本当に長く寒く、雪だらけの旭川でした。先日の講演会でVitDが低下する季節とインフルエンザの流行する季節が一致するという話を伺いました。もちろん、要因は日照時間や気温などの要因が関与し、一元的に原因というわけではないのはわかりますが、北彩都の集計では確かに今年は例年よりもはるかに遅く長くインフルエンザが流行し、B型が3月にピークを迎えました。1.25(OH)2D3というたったこの微量な物質でさえ、多様な作用を持つ人体の不思議に驚かされます。

冬の旭川は、路面が凍結しており、さらに頭上からはつららや雪の塊が落下するという危険極まりない環境になります。透析患者たちは、どんなに慣れている地元出身者であっても、転倒による骨折、打撲のリスクが高くなります。今年は、転倒による大腿骨

頸部骨折のみならず、頭部打撲による硬膜外血腫の患者も出てしまいました。冬場になると極端に外出が減り歩行時間も減りますので、冬期の筋力や骨密度の低下がおこってきます。だとすると、北国ほど冬場にVitDの内服を強化するといいいのかもしれませんが。血圧に季節変動があり降圧薬を調整するように、VitDの内服にも季節変動を付けるといいいのかもしれませんが。

さらに、JSDTの二次性副甲状腺機能亢進症ガイドラインの改定が行われました。すでに、透析室での回診で検査結果の説明時に、「以前はiPTH180以下を目標としていましたが、いまは240まではよくて、それよりも何よりもリンの管理が優先しますよ」などと、昨日までと打って変わって説明を変えています。つまり、こういった臨床研究やガイドラインは、実臨床現場に直結して診療行動に変化を起こすことができるのです。VitD投与を積極的に勧めてきた当院の医師もそして患者も、J-DAVIDの結果が春の到来同様に待ち遠しいのです。J-DAVID最北端の街から、熱いエールをこめて。



## 最近の文献から

**血漿年4回の経口ビタミンDボラス補充による肺炎発症頻度に対する効果:アフガニスタン(カブール)の幼児におけるランダム化比較試験**  
**Effect on the incidence of pneumonia of vitamin D supplementation by quarterly bolus dose to infants in Kabul: a randomised controlled superiority trial.**

Manaseki-Holland S, et al. Lancet. 2012 Apr 14;379(9824):1419-27. Epub 2012 Apr 10.

【ポイント】カブールの幼児約3046例をビタミンD3（コレカルシフェロール）10万単位とプラセボ群に割付、3カ月毎に18カ月投与した。レントゲンで確認された肺炎の発生頻度は両者で差がなかった。この条件におけるこのビタミンD投与方法は肺炎予防には効果的ではなかった。

【詳しくは】[http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list\\_uids=22494826](http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=22494826)

## 最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(4月25日現在)

### 症例報告書回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	中止時	脱落基準	SAE	イベント
前月	976	834	808	579	389	263	132	48	72	111	55	108
今月 (前月比)	976	853 (+19)	829 (+21)	637 (+58)	391 (+2)	273 (+10)	153 (+21)	48 (+0)	76 (+4)	117 (+6)	76 (+21)	116 (+8)

### 内容確認書(クエリー)回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE	イベント	総数
発行	1054	622	448	321	207	85	53	13	786	95	12	11	11	3718
回収	1036	608	407	274	168	62	33	2	641	93	11	9	9	3353
回収率 (%) (前月比)	98.3 (—)	97.7 (—)	90.8 (-0.6)	85.4 (-7.3)	81.2 (-12.6)	72.9 (-19.6)	62.3 (+1.1)	15.4 (-84.6)	81.6 (-5.0)	97.9 (+6.2)	91.7 (+0.8)	81.8 (—)	81.8 (—)	90.2 (-3.1)

## J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



### 【重要】HbA1cの記載についてお願い

この度、日本糖尿病学会によって発行されました「日常臨床及び特定健診・保健指導におけるHbA1c国際標準化の基本方針及びHbA1c表記の運用指針」の改定に伴いまして、日常臨床におけるHbA1cの表記において、平成24年4月1日よりHbA1cの値はNGSP値を用い、当面の間、JDS値も併記することとなりました。

これに従い、J-DAVID症例報告書につきましても、**平成24年4月1日以降に検査したHbA1cの値は当面の間、JDS値、NGSP値の併記**でお願いいたします。NGSP値のみ測定されている場合はNGSP値のみご記入ください。その場合はNGSP値とわかるように記載お願いいたします。お手数をおかけいたしますがご協力よろしくをお願いいたします。

<記入例>

TG	mg/dl		
HDL-C	mg/dl		
HbA1c	%	JDS: 6.5, NGSP: 6.9	
	<input type="checkbox"/> 糖尿病患者でない		
グリコアルブミン	%		
	<input type="checkbox"/> 糖尿病患者でない		



編集・発行：J-DAVID研究会事務局  
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分泌病態内科学 内  
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808  
J-DAVID試験データセンター  
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

ホームページもご覧下さい。  
<http://j-david.info/>